デイリー・マーケット・レポート

東京市場デイリー・レビュー／2026 年 10 月 21 日（水） 発行：ていネコの投資ノート

1．本日のサマリー

■ 日経平均株価は前日比 545 円 82 銭高の 6 万 4621 円 24 銭と 3 営業日ぶりに反発した。米スーパー・マイクロ・コンピューター（SMCI）の売上高見通し上方修正と米スペース X の好決算を受け、寄り付き直後は一時 1329 円 21 銭高の 6 万 5404 円 63 銭まで駆け上がったが、6 万 5000 円台では戻り売りに押され、上げ幅の約 6 割を削って引けた。

■ 上昇の主役は値がさの半導体関連だった。寄与度上位 5 銘柄（アドバンテスト、ソフトバンクグループ、イビデン、東京エレクトロン、TDK）だけで約 295 円を押し上げ、上昇幅の 54%を占めた（筆者算出）。TOPIX の上昇は 0.86%で、日経平均の 0.85%とほぼ並んだが、TOPIX は 2 営業日ぶりの反発にとどまる。

■ 物色の裾野は意外に広かった。東証プライムの値上がりは 979 銘柄で全体の約 6 割、33 業種中 24 業種が上昇した。非鉄金属（＋2.62%）、銀行（＋2.33%）、保険（＋2.12%）、証券（＋1.66%）と、資源と金利に連動する業種が上位を占め、AI・半導体一本やりの買いではなかった。

■ 材料面では原油高の一服と日米長期金利の低下が支えとなった。ただしホルムズ海峡でのタンカー爆発を受け WTI は 99 ドル近辺を維持しており、日本時間 22 日未明に発表される米メタ・プラットフォームズとテスラの決算を控え、後場は様子見に傾いた。

2．主要指標

指標	水準	前日比	備考
日経平均株価	64,621.24 円	+545.82（+0.85%）	3 営業日ぶり反発。高値 65,404.63／安値 64,558.60
TOPIX	4,043.73	+34.52（+0.86%）	2 営業日ぶり反発。始値 4,051.99
東証プライム売買代金	6 兆 9,265 億円	+1,273 億円	売買高 21 億 7,903 万株。概算値
値上がり／値下がり	979／520	—	変わらず 48。33 業種中 24 業種が上昇
新発 10 年国債利回り	2.890 %	-0.005 %	10 月 21 日 15 時 40 分時点
新発 20 年国債利回り	3.710 %	—	同 15 時 37 分時点。前日値未確認のため前日比は非掲載
長期国債先物 12 月限	125 円 80 銭	-0 円 01 銭	寄付 125 円 78 銭。3 営業日ぶり小反落
ドル円	158.17 円	±0.00 円	東京時間レンジ 158.04〜158.39 円
ユーロ円	177.51 円	-0.22 円	10 月 21 日 15 時 40 分時点
NY ダウ	52,495.88 ドル	+529.85（+1.02%）	10 月 20 日終値。3 営業日ぶり反発
S&P500	7,712.57	+21.84（+0.28%）	10 月 20 日終値
ナスダック総合	26,424.82	-6.07（-0.02%）	10 月 20 日終値
SOX 指数	11,283.8	-32.5（-0.29%）	10 月 20 日終値。半導体は上昇に乗れず
米 10 年債利回り	5.109 %	-0.031 %	10 月 20 日 NY 終値
WTI 原油 11 月限	101.79 ドル	-1.87（-1.80%）	10 月 20 日清算値。同限月は同日納会
NY 金 12 月限	4,142.6 ドル	-17.5	10 月 20 日清算値（COMEX 先物）
韓国 KOSPI	5,735.66	+3.29 %	10 月 21 日終値
上海総合指数	3,713.03	-0.60 %	10 月 21 日終値

3．株式市場

寄り付き直後に 1300 円超高、6 万 5000 円台では戻り売り

日経平均は前日比 810 円 53 銭高の 6 万 4885 円 95 銭で寄り付き、午前 9 時 29 分に 6 万 5404 円 63 銭（前日比 1329 円 21 銭高）まで上昇した。前日の米国市場で主要指数がまちまちに終わったにもかかわらず東京市場が強含んだのは、取引終了後の時間外で動いた 2 つの材料にある。AI サーバー大手 SMCI が第 1 四半期の暫定売上高見通しを上方修正し、同社株が時間外で急伸したこと、そして米スペース X の 7〜9 月期決算が市場予想を上回り、AI データセンターの計算容量を他社に貸し出す事業の好調が確認されたことである。後者は時間外で一時 8%超上昇した。

ただし 6 万 5000 円台では戻り売りが厚かった。10 月 15 日に 3318 円安という急落を経験した水準であり、戻り待ちの売り圧力が残っている。後場は手掛かり材料に乏しく、韓国 KOSPI と米株先物の上昇が一服すると上げ幅を縮め、終値は高値から 783 円安い水準となった。売買代金は 6 兆 9265 億円で前日をわずかに上回ったが、10 月 15 日の 10 兆 1401 億円には遠く及ばず、反発の勢いを裏づけるほどの資金は入っていない。

金融株主導の上昇という、もう一つの顔

業種別で上昇率トップは非鉄金属（＋2.62%）だが、2 位から 5 位は銀行（＋2.33%）、保険（＋2.12%）、証券・商品先物（＋1.66%）、その他金融（＋1.65%）と金融が独占した。三菱 UFJ フィナンシャル・グループ、みずほフィナンシャルグループ、MS&AD インシュアランスグループホールディングス、東京海上ホールディングス、大和証券グループ本社、野村ホールディングスが揃って上昇し、非鉄では三井金属、フジクラが買われた。一方で小売（－ 0.88%）、パルプ・紙（－ 0.52%）、鉱業（－0.50%）が下落し、セブン＆アイ・ホールディングス、イオン、王子ホールディングス、北越コーポレーションが軟調だった。

指数を押し下げた側は KDDI が 12 円 74 銭、ファーストリテイリングが 12 円 14 銭、ニトリホールディングスが 4 円 97 銭、花王が 4 円 31 銭のマイナス寄与で、内需・ディフェンシブから AI 関連へ資金が戻る動きが確認できる。個別ではネクセラファーマ、GMO グローバルサイン・ホールディングス、アステリアが上昇し、チェンジホールディングス、クオールホールディングス、ディップが下落した。

4．本日の主題：米半導体株が下げた翌日に、東京の半導体株が急騰した理由

10 月 20 日の米国市場で、フィラデルフィア半導体株指数（SOX 指数）は 11,283.8 ポイント、前日比 0.29%安で終えた。ダウ平均が 529 ドル高と 3 営業日ぶりに反発したのは、米イラン協議の進展観測による原油安と医療政策を手掛かりにしたヘルスケア株買いが主因で、エヌビディアもアップルも下落し半導体は上昇に乗れていない。それにもかかわらず、翌 21 日の東京市場では半導体関連が買われ、日経平均は一時 1329 円高となった。

理由は、東京市場が参照したのが米国市場の終値ではなく時間外の値動きだったことにある。SMCI の売上高見通し上方修正とスペース X の好決算はいずれも取引終了後に出た材料で、SOX 指数の終値には反映されていない。本日の東京市場は米国の「昨日」ではなく「今夜」を先取りして買われた。

この性質は日経平均と TOPIX の違いにも表れた。日経平均は 3 営業日ぶり、TOPIX は 2 営業日ぶりの反発で、TOPIX は日経平均が 407 円安だった 19 日にすでに下げ止まっていた。値がさの半導体関連とソフトバンクグループの寄与度が大きい日経平均は AI 関連の時間外に振り回される一方、金融・内需・資源の比重が高い TOPIX は原油安と米金利低下という別の論理で動く。545 円高のうち 54%は上位 5 銘柄で説明がつき（筆者算出）、今夜の決算次第で容易に反転しうる。

5．債券・金利

新発 10 年物国債利回りは 2.890%と前日比 0.005%低下した。長期国債先物 12 月限は 125 円 78 銭で始まり、高値 125 円 85 銭、安値 125 円 71 銭をつけ、終値は 125 円 80 銭と 1 銭安で 3 営業日ぶりに小反落した。氷見野良三日銀副総裁の「基調物価は 2%に近づいている」との発言も相場への影響は限定的だった。

新発債利回りは 2 年 1.886%、5 年 2.284%、20 年 3.710%。前日の 20 年債入札が強い結果となり超長期の需給不安はいったん後退した。米国債は 20 日に 2 年 4.776%（＋0.004%）、10 年 5.109%（－0.031%）、30 年 5.419%（－0.049%）。原油安でインフレ懸念が和らぎ長期債が買われたが、水準自体は依然として高い。

6．為替・商品

ドル円は 158 円 17 銭と前日のニューヨーク終値からほぼ横ばいで、東京時間は 158 円 04 銭から 158 円 39 銭の狭いレンジにとどまった。株高でも円安が進まなかったのは、米長期金利の低下が重しとなったためである。

WTI 原油 11 月限は 101.79 ドル、1.87 ドル安（1.80%安）で納会を迎えた。取引量の多い 12 月限は 97.82 ドル（0.72 ドル安）。ただしイラン革命防衛隊は、ホルムズ海峡の機雷に 200 万バレル超を積んだタンカーが接触して爆発・炎上したと発表しており、アジア時間の原油先物は 99 ドル台を維持した。原油安という株式の支えは前提が脆い。NY 金 12 月限は 4,142.6 ドルと 17.5 ドル下落し続落となった。

7．海外市場の動向

20 日の米国市場は方向感が分かれた。ダウ平均は 52,495.88 ドルと 529.85 ドル高（＋1.02%）で 3 営業日ぶりに反発した。S&P500 は 7,712.57（＋0.28%）、ナスダック総合は 26,424.82（－0.02%）、SOX 指数は 0.29%安。協議進展観測による原油安が反発を促したが、外交官が報道を否定して上げ幅は伸び悩んだ。VIX 指数は 17.31 と 1.13 ポイント低下した。

21 日のアジア市場はまちまちだった。韓国 KOSPI は 5,735.66 と 3.29%の大幅反発。SMCI の見通し上方修正に加え、マスク氏がスペース X とテスラの合併を協議する委員会を設置したとの報道がテック株を押し上げた。台湾加権指数も 1.02%高（14 時 1 分時点）と、半導体比重の高い市場が揃って上昇した。対照的に上海総合指数は 0.60%安、香港ハンセン指数は 0.41%安（同時点）で、半導体比重の低い市場は原油高が重荷となった。シカゴ日経平均先物の清算値は 64,940 円で、大阪取引所の日中終値を 235 円上回る。

8．直近の推移

日付	日経平均	前日比	TOPIX	10 年債	売買代金
10 月 15 日(木)	64,425.95	-3,318.34	3,999.34	2.890 %	10.14 兆円
10 月 16 日(金)	65,324.29	+898.34	4,066.00	2.930 %	7.67 兆円
10 月 19 日(月)	64,916.70	-407.59	4,067.48	2.905 %	6.78 兆円
10 月 20 日(火)	64,075.42	-841.28	4,009.21	2.895 %	6.80 兆円
10 月 21 日(水)	64,621.24	+545.82	4,043.73	2.890 %	6.93 兆円

9．総括と注目点

本日は米国市場の時間外で生じた好材料を先取りするかたちで反発し、半導体関連と金融株という 2 つの流れが同時に進んで値上がり銘柄数は 979、全体の約 6 割に達した。ただし売買代金は 15 日の急落時の 7 割弱にとどまり、上げ幅の 54%が上位 5 銘柄に依存する。原油が 99 ドル近辺にあり米長期金利が 5%を上回る環境では、相場の性格が強気に転じたと判断するのは早い。

- 米メタ・プラットフォームズとテスラの決算（日本時間 22 日未明）。本日の東京市場はスペース X と SMCI の時間外の上昇を先取りして買われており、期待が裏切られれば巻き戻しが起きやすい。
- ホルムズ海峡の情勢と原油価格。機雷接触によるタンカー爆発が確認され、協議進展観測と供給不安が綱引きしている。原油の再上昇は内需・小売の重荷となり、金利を通じて株式全体に及ぶ。
- 10 月 27～28 日の FOMC と 29～30 日の日銀決定会合（据え置き見通しが報道済み）、豪中銀の 11 月利上げ観測。国内では決算発表が本格化し、物色の軸が指数から個別の業績見通しへ移る。

〔脚注〕売買代金・売買高は概算値。騰落銘柄数は株探 15 時 32 分配信の 979／520／変わらず 48 を採用（ウエルスアドバイザー 15 時 51 分は 982／521／50、後刻の集計で 3 銘柄増）。TOPIX の騰落方向と上昇業種数 24 に矛盾しないことを確認。寄与度は株探の大引け版、上位 5 銘柄合計約 295 円と 54%は筆者算出。
新発 10 年債は東京マーケットダイジェスト 15 時 40 分の 2.890%（フィスコ 15 時 37 分は 2.882%）を採用。前日比は前営業日 2.895%との差。2 年・5 年・20 年債はフィスコ 15 時 37 分時点で裏取りができず、20 年債は前日値を確認できず前日比は非掲載。30 年債は取得できなかった。直近の推移の 10 年債は 19 日を 2.905%（別系統の 2.935%は 20 日の前日比と整合せず不採用）。
WTI11 月限 101.79 ドルは前営業日終値 103.66 ドルとの検算一致を確認。NY 金は COMEX 先物 12 月限の清算値でスポットとは水準が異なる。SOX 指数 11,283.8 は単独出典（半導体株下落との方向一致を確認）。日経平均の始値 64,885.95 円・安値 64,558.60 円は小数点以下まで示す出典を 1 本しか確認できていない（株探の円単位表示と整合）。寄り付きの前日比 810 円 53 銭は筆者算出。本資料は生成 AI を用いて公開情報を整理・執筆した。出典：日本経済新聞、株探、フィスコ、ウエルスアドバイザー、みんかぶ、OANDA 証券、時事通信、Investing.com、Bloomberg。
本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。